

## 新型コロナウイルス感染症対策に関する議会の取り組み



【左側・手前】関根敏伸本部長（議長）【左側・奥】中平均副本部長（副議長）



4月30日の臨時会の様子

県議会では、4月20日に岩手県議会災害対策連絡本部を設置しました。同日、早速、連絡本部会議を開き、新型コロナウイルス感染症対策に関する提言を決定し、本部長（関根敏伸議長）から知事へ提言書を手交しました。

また、5月20日には、臨時会を開催して新型コロナウイルス感染症対策に関する意見書を議決し、国会や国の関係機関等に対し、経済・雇用を回復させ医療と国民生活を守る対策を講ずるよう強く要望しました。

このほか、県議会では、議場内においても、本会議・委員会等でのマスクの着用、傍聴席の間隔を空けての使用、議会棟正面入口での検温の実施など、新型コロナウイルス感染防止に取り組んでいます。



「いわて県議会だより」は各市町村を通じて県内全世帯にお配りしています。点字版・テープ版・デジ版も用意していますので、ご希望の方は、県議会議務局までお問い合わせください。



ホームページのご案内  
議会の概要、議員名簿、本会議の会議録、本会議のインターネット中継、傍聴や請願・陳情の手続などをご覧ください。  
<http://www2.pref.iwate.jp/hp0731/>

編集・発行・  
問い合わせ先

岩手県議会議務局  
〒020-8570 岩手県盛岡市内丸10番1号  
電話 (019) 629-6021・6022  
FAX (019) 629-6014  
E-mail gikai@pref.iwate.jp



岩手県庁の隣です

### 4月臨時会のあらまし

4月臨時会は4月30日に開催されました（会期は1日）。

国の「新型コロナウイルス感染症緊急経済対策」を踏まえ、感染拡大の防止や経済・雇用対策に緊急に対応が必要となる予算を計上した令和2年度岩手県一般会計補正予算（第2号）など、知事から提出された4件の議案は同日に全て可決されました。

#### 議決の状況

- ◎令和2年度補正予算【可決】  
一般会計1件、特別会計1件、企業会計1件
- ◎専決処分【承認】  
岩手県県税条例等の一部を改正する条例の専決処分に関し承認を求めることについて

### 5月臨時会のあらまし

5月臨時会は5月20日に開催されました（会期は1日）。

5月19日に開催された第2回岩手県議会災害対策連絡本部会議での決定を踏まえて委員会が提出した新型コロナウイルス感染症対策に関する意見書は同日に可決されました。可決された意見書は、県議会から、内閣総理大臣をはじめ国会や国の関係機関などに提出し、その実現を図るよう強く要望しました。

#### 議決の状況

- ◎委員会提出議案【可決】  
新型コロナウイルス感染症対策に関する意見書

### 6月臨時会のあらまし

6月臨時会は6月11日に開催されました（会期は1日）。

新型コロナウイルスの感染拡大の防止と社会経済活動の維持の両立を図るために必要となる予算を計上した令和2年度岩手県一般会計補正予算（第3号）など、知事から提出された8件の議案は同日に全て可決されました。

#### 議決の状況

- ◎令和2年度補正予算【可決】  
一般会計1件
- ◎条例議案【可決】  
一般職の職員の特務勤務手当に関する条例の一部を改正する条例など7件

## 6月定例会

6月定例会は、6月23日から7月6日まで開催されました。地域医療再生等臨時特例基金条例の一部を改正する条例など、知事から提出された15件の議案は全て可決・同意され、委員会が提出した13件の議案は全て可決されました。また、請願は7件が採択、1件が不採択となりました。

### 議決の状況

- ◎条例議案【可決】  
岩手県の事務を市町村が処理することとする事務処理の特例に関する条例の一部を改正する条例など6件
- ◎人事議案【同意】  
公安委員会の委員の任命に関し同意を求めることについて
- ◎その他の議案【可決】  
平泉の文化遺産ガイダンス施設（仮称）展示製作の請負契約の締結に関し議決を求めることについてなど8件
- ◎委員会提出議案【可決】  
意見書13件（詳細は2ページに記載）
- ◎請願  
採択7件、不採択1件（詳細は3ページに掲載）

★議員別の賛否の状況は県議会ホームページでご覧になれます。



6月23日の議場の様子

# 委員会が提出した議案

今定例会では意見書13件が可決されました。可決された意見書は、県議会から、内閣総理大臣をはじめ国会や国の関係機関などに提出し、その実現を図るよう強く要望しました。

## ◎意見書

- ▶ 計画的な教職員定数改善及び義務教育費国庫負担制度拡充を求める意見書
- ▶ 東日本大震災津波の被災者の医療費窓口負担、介護保険サービス利用者負担等の免除に対する財政支援の強化を求める意見書
- ▶ 医師、看護師の大幅な増員を求める意見書
- ▶ 免税軽油制度の継続を求める意見書
- ▶ 東日本大震災津波をはじめ災害からの復興とふるさと振興の推進等のための地方財政の充実、強化を求める意見書
- ▶ 森林、林業及び木材産業に関する政策の推進を求める意見書
- ▶ 公共交通への支援の強化を求める意見書
- ▶ GIGAスクール構想の実現を求める意見書
- ▶ 水産業発展に向けた支援の強化を求める意見書
- ▶ 産前産後サポート・産後ケア体制の支援強化を求める意見書
- ▶ 地方創生実現に向けたICT利用環境の整備に関する意見書
- ▶ 東京一極集中の是正に向けた取組を求める意見書
- ▶ 結婚支援の更なる充実を求める意見書

★意見書の本文は県議会ホームページでご覧になれます。

## 県政に関する質問から 6月29日から7月1日まで行われた一般質問では、9名の議員が質問に立ちました。その中から、それぞれ2項目を取り上げ、議員の質問と知事または関係部局長等の答弁の要旨を紹介します。

### 6/29(月) 一般質問

質問タイトル上のアイコンは、質問の分野を示しています。 総務関係(他の4分野以外のもの) 文化、教育関係 環境、福祉関係 商工、建設関係 農林水産関係

各質問者の録画映像はQRコードからご覧いただけます。または「岩手県議会中継」で検索してご覧いただけます。※視聴環境はWi-Fiおよび各キャリアの高速回線サービスを推奨します。

1人目  
自由民主党  
千葉 伝 議員  
[八幡平選挙区]



2人目  
希望いわて  
佐々木 順一 議員  
[花巻選挙区]



3人目  
自由民主党  
佐々木 茂光 議員  
[陸前高田選挙区]



**総務関係** 新型コロナウイルス感染症対策に係る市町村との連携

**問** 新型コロナウイルス感染症が社会経済活動にさまざまな影響を及ぼしている中で、県と市町村との連携をどのように進めていくのか伺う。

**答** 4月14日に新型コロナウイルス感染症対策に係る県と市町村長との意見交換会を開催したほか、県対策本部地方支部での情報共有や全市町村への要望調査などを行った。

それらを踏まえ、市町村や関係機関と調整し、マスクなど衛生用品の調達、地域外来・検査センターの設置、学校の臨時休業及び県産農林水産物の学校給食への提供による消費拡大などの対策を講じるとともに、市町村単位での事業者支援、特に家賃補助の実施にも取り組んでいる。また、県から国への要望にも市町村の意見を反映させてきたところであり、引き続き、市町村と力を合わせ、新型コロナウイルス感染症対策に取り組んでいく。

**環境福祉** 発熱外来の設置と今後の見込み

**問** 新型コロナウイルス感染症拡大の局面を見据え、医療圏ごとの発熱外来の設置状況と今後の見込みについて伺う。また、県民に対し、早い段階からインフルエンザの予防接種を推奨すべきと思うがいかがか。

**答** 地域外来・検査センターはこれまでに両磐、宮古、胆江、釜石、盛岡の五つの医療圏で運用開始された。中部、気仙、二戸の各医療圏では設置する市で予算措置がされ、久慈医療圏では関係者と設置に向け調整を進めており、7月中をめどに全ての医療圏で設置される見込みとなっている。

また、インフルエンザと新型コロナウイルス感染症は、感染経路が同じ接触感染及び飛沫感染で、臨床症状だけでは明確な区別が困難であるため、発熱外来などの院内感染対策として、インフルエンザワクチンの接種によりインフルエンザ患者が減少することは意義が大きいと考えている。このため、今冬に向けて市町村などと連携し普及啓発を行っていく。

**農林水産** 磯焼け対策

**問** 磯焼けを改善し、漁場の生産力を高めるため、漁協と漁業者が一致団結して藻場の再生に向けた取り組みを積極的に推進する必要があるが、県はどのように取り組んでいくのか伺う。

**答** 近年の磯焼けの発生は、水産技術センターの分析によれば、冬場の海水温が例年よりも高めに推移したため、ウニなどが活発に活動し、この時期に発芽したコンブなどが成長前に食害されたことが要因の一つとされている。

藻場の再生には、コンブの養殖技術を応用した海中林と呼ばれるコンブの森づくりや、漁場からのウニなどの間引きが有効で、県では、磯焼け状態の漁場におけるコンブの胞子の放流や過剰なウニの駆除など、漁協と漁業者による再生活動を支援している。

また、新たな取り組みとして、水産技術センターが開発したワカメなど大型人工種苗を活用した海中林の造成試験を行うこととしており、こうした取り組みを積極的に推進することにより漁場の生産力を高め、漁業者の収益向上につなげていく。

**農林水産** 畜産業の振興について

**問** 肉用牛の枝肉価格が大幅に下落しており、牛肉の出口対策の強化や肉用牛肥育農家への支援が必要と考えるが、県などの支援策を伺う。

**答** 牛肉需要の減少により枝肉価格が低下した肉用牛肥育農家の経営を維持・継続させていくためには、牛肉の消費拡大と経営安定対策が重要である。このため、牛肉の消費拡大に向け、買うなら岩手のもの運動の一環として、県内114店舗のいわて牛取扱推奨店などと協力し、いわて牛を食べて応援フェアを行うとともに、県内小中学校などの給食にいわて牛を提供することとしている。

また、肉用牛肥育農家の経営安定に向け、販売単価と生産費の差額を補填する国の経営安定対策の活用に加え、肥育素牛の導入支援や、出荷実績に応じて奨励金が交付される国庫事業の要件となる生産者の経営分析などの取り組みを支援することとしており、引き続き、市町村や農業団体と連携しながら、肥育農家の経営安定に取り組んでいく。

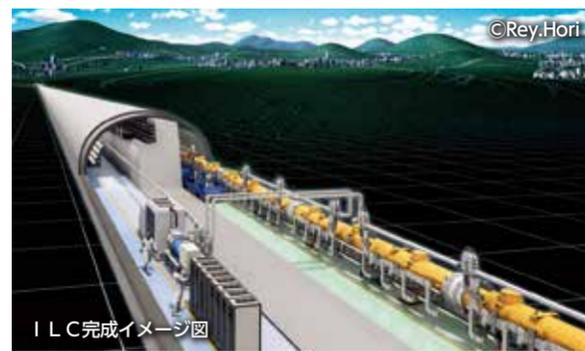


**総務関係** ILCの実現

**問** 6月19日に公表された欧州素粒子物理戦略をどのように受け止めているか、ILC実現に向けた今後の取り組み方針と併せて伺う。

**答** 公表された欧州素粒子物理戦略では、ILCについてこれまでの戦略よりも積極的な姿勢が示され、国際プロジェクトであるILCの実現に向けて極めて意義深いと感じている。アメリカからの支持も表明されており、今後、ILC建設に向けた経費負担など、国際協力に関する具体的な協議の進展が期待される。

県としては、国内外の動向に臨機に対応し、超党派国会議員連や関係団体などと一層の連携を図りながら、政府への要望や国民理解の増進に取り組むとともに、現在、設立が進められている国際推進チームの活動を見据えた建設候補地としての取り組みを、関係自治体や研究者などと連携して進めていく。



**商工建設** 県道釜石住田線の整備

**問** 県道釜石住田線の国道340号から滝観洞インターチェンジまでの未改良区間の今後の整備予定について伺う。

**答** 国道340号から滝観洞インターチェンジまでの区間は、滝観洞へのアクセス路であるとともに、沿線地域の日常生活を支える大切な路線であると認識している。

このうち、約6kmの未改良区間については、道路現況調査の結果や復興道路開通後の交通の流れの変化、公共事業予算の動向などを踏まえ、どのような整備が可能か検討していく。

また、この区間には、落石対策など防災対策が必要な箇所があることから、現在、下寒倉地区と中坪地区で防災事業を計画的に進めており、引き続き日常生活を支える安全な道づくりを推進していく。

## 請願の採択状況

### ◎採択(意見書を発議し、関係機関に要望することとして採択)

- ▶ 免税軽油制度の継続を求める請願
- ▶ 東日本大震災津波をはじめ災害からの着実な復興とふるさと振興の推進等のための地方財政の充実・強化を求める請願【総務部、ふるさと振興部、復興局所管分】
- ▶ 東日本大震災津波をはじめ災害からの着実な復興とふるさと振興の推進等のための地方財政の充実・強化を求める請願【保健福祉部所管分】
- ▶ 教職員定数改善と義務教育費国庫負担制度2分の1復元をはかるため、2021年度政府予算に係る意見書の提出を求める請願
- ▶ 東日本大震災被災者の医療費窓口負担の免除継続を求める請願
- ▶ 被災者の医療費・介護保険利用料などの免除措置の継続を求める請願
- ▶ 医療崩壊を防ぐために医師、看護師の増員を求める請願

### ◎不採択

- ▶ 緊急経済対策として「消費税率を5%に引き下げることを国に求める意見書」の提出を求める請願

★採択された請願の本文は県議会ホームページでご覧になれます。

### 用語解説

- ▶ **欧州素粒子物理戦略(2ページ)** …20年以上の将来を見据えた上で、今後、6~7年間に優先的に対応するヨーロッパの素粒子物理学の研究に関する戦略。2006年7月に最初に策定され、今回は2度目の更新。
- ▶ **お米マイスター(4ページ)** …一般財団法人日本米穀商連合会が主宰する、お米に関する専門職経験がある人のみに受験資格がある、お米の博士号とも言える資格。
- ▶ **北いわてスマート農業プラットフォーム創造事業(4ページ)** …県北地域を中心とする中山間地域の気象条件や土地条件に適応したスマート農業技術の導入を促進するため、県北農業研究所を拠点として、農業者、研究機関、大学等が連携し、自動走行農機や環境制御に関する技術実証などを実施する事業。

## 6/30(火) 一般質問

### 1人目

いわて新国会  
よしだ けいこ  
**吉田 敬子** 議員  
[盛岡選挙区]



### 2人目

希望いわて  
なすかわ しん  
**名須川 晋** 議員  
[花巻選挙区]



### 3人目

いわて新国会  
ささき ともかず  
**佐々木 朋和** 議員  
[一関選挙区]



### 環境福祉 周産期医療体制の充実

**問** 分娩を取り扱う医療機関の減少、社会的ハイリスク妊産婦の増加や令和6年度の医師の時間外労働の上限規制施行の状況の中、今後の周産期医療圏の設定、集約化・重点化の考えを伺う。

**答** 現行の岩手県保健医療計画(2018~2023)策定時において周産期医療実態調査を実施し、各周産期医療圏の居住者の圏域内での出産が8割程度と概ね圏域内で完結している状況などを踏まえ、現在の四つの周産期医療圏を継続することとした。

次期医療計画策定に向け、改めて実態調査を実施するとともに、社会的ハイリスク妊産婦への医療機関の対応を把握し、さらには、医師をはじめとした医療従事者の勤務環境の改善にも十分配慮しながら、人口動態や医療資源の動向などを踏まえ、中長期的観点から質の高い安全な周産期医療を適切に提供していくための周産期医療圏の在り方など、医療供給体制の検討を進めていく。



産婦人科での診察

### 農林水産 農林水産分野の食品廃棄物削減の取り組み

**問** コロナ禍で、フードバンクに問い合わせが相次いでおり、食べられるのに捨てられてしまう農林水産物を提供する取り組みが有効と考えるが、食品廃棄物削減の取り組み状況と課題を伺う。

**答** 県では、規格外や収穫段階で傷つくなど、これまでは廃棄せざるを得なかった生産物を活用した商品の開発を支援しているほか、野菜などの腐敗を防ぐ効果のある鮮度保持フィルムの導入を促進するなど、販売できずに廃棄する野菜を発生させない取り組みを進めている。

また、JAいわてグループが、規格外の農産物や産直施設で売れ残った食材などを集め、県内のフードバンクや子ども食堂に提供する活動を行っている。

農林水産分野における食品廃棄物削減には、関係者の機運醸成と連携が課題であると認識しており、引き続き、関係団体と意見交換などを行いながら、意識啓発や連携促進に取り組んでいく。

### 環境福祉 感染観察都道府県の維持

**問** 県は、新型コロナウイルス感染者ゼロを目指すのではなく、感染観察都道府県を維持するという基本目標を常に県民に発信していくべきと考えるが、所感を伺う。

**答** 県は、感染観察都道府県を維持することを基本的対処方針で目標に設定しており、感染を防止するためには、密閉・密集・密接の三つの密を避け、マスクの着用や丁寧な手洗いを励行するなど、基本的な感染対策を行うことが重要である。

本県での感染者第1号になりたくないという思いが、県民の適切な感染対策に結びついていると思われるが、一方、検査や受診を控えることや、来県者などへの心ない言動などにつながることは好ましくないと考えている。

今後においても、県民が医療関係者や県民生活に不可欠なサービスの提供に従事する方々への感謝の気持ちと、その家族に対する思いやりを持って対応し、来県者などとも連携・協力していくことができるよう発信していく。



新型コロナウイルス感染防止の基本的対策

### 文化教育 コロナ禍により目標を喪失した生徒へのケア

**問** コロナ禍はスポーツにも影響を及ぼし、中総体および高総体の中止により、急に目標を喪失した最終学年の生徒は大変多く、このような生徒に対して学校はどのようなケアをしているのか伺う。

**答** 中総体および高総体については、生徒が活躍できる機会を設けようと、各連盟や専門部などで代替大会などを実施または検討をしているところであり、県教育委員会でも代替大会などの支援をしている。

また、生徒へのケアについては、大会に参加できない生徒を含め、全ての生徒に対して、情報提供や面談などを通して、個々の生徒が進路目標の実現に向けて前向きに取り組めるよう、適切に助言・指導を行っていく。

### 商工建設 新しい観光宣言

**問** 新しい観光宣言に込めた思い、県民による県内観光のテーマ、この夏の宣伝戦略と併せ、コロナ戦略の策定について所見を伺う。

**答** 安全安心な岩手の観光を実現し、将来にわたり持続可能な岩手の観光を上げるため、いわての新しい観光を宣言した。

県民による県内観光は、県民に豊かな自然、歴史・文化、食、温泉、体験プログラムなどを体感し、さらに、その魅力を発信してもらえよう、観光コンテンツを磨き上げることで、将来の国内外からの誘客につなげようとするものである。

この夏の観光は、岩手ならではの観光資源を生かした情報発信と、徹底した感染症対策により、いわての良さを実感していただく旅を提案していく。

今後の観光戦略については、県内観光からインバウンド誘客まで段階的な取り組みの工程を策定し、市町村や観光事業者と共有していく。



いわての観光リスタートセレモニーの様子

### 文化教育 県立高校の専門学科の統合

**問** 水沢工業、一関工業、千厩の各校専門学科の統合が発表されたが、県として集積を推し進める製造業に人材を輩出している専門高校などを1校に集約する目的と統合高校のコンセプトを伺う。

**答** 新たな県立高等学校再編計画後期計画案では、地域や地域産業を担う人づくりを基本的な考え方の一つとして、本県の産業振興の動向を踏まえ、地域の産業教育の拠点となる専門高校などの整備のために統合を行うこととしている。県南地域の工業高校の設置は、盛岡工業高校、黒沢尻工業高校と並ぶ工業教育の基幹となる学校の整備を目的としている。

新設校においては、時代に対応したITやIoT、AIなどに関連する新しい学びの創設も検討しながら、本県に集積するものづくり産業などのニーズに幅広く対応した工業教育の充実を図ることにより、地域の産業を支える人材の育成を進めていく。

1人目

いわて県民クラブ  
千葉 絢子 議員  
[盛岡選挙区]



2人目

希望いわて  
菅野 ひろのり 議員  
[奥州選挙区]



3人目

無所属  
山下 正勝 議員  
[二戸選挙区]



総務関係 価値観が大きく変わる中での幸福

**問** 新型コロナウイルス感染症により世界中の価値観が変わろうとしている。いわて県民計画の経済的な豊かさによらない幸福の真価が問われるが、知事はどんな形で幸福を語るのか。

**答** いわて県民計画では、いわて幸福関連指標として県民所得や完全失業率をはじめとした物質的な豊かさを代表する指標を掲げ、その上で、経済的な尺度では図ることのできない心の豊かさや、地域や人とのつながりなど、さまざまな要素を含め総合的に評価することとしている。

新型コロナウイルス感染症により本県経済は大きな影響を受けており、経済を早期に回復させ、収入や働く場を確保することが重要である。

このため、3次にわたる補正予算を編成し、県民の命と健康を守ることを最優先にしつつ、経済・雇用対策に力を入れており、その施策を通じ、いわて幸福関連指標の向上を図り、お互いに幸福を守り育てる希望郷いわての実現に向けた取り組みを進めていく。



いわて県民計画

総務関係 財源確保と中期財政見通しの見直し

**問** 財政調整基金残高の現状をどのように考え、財源確保に向けどのように取り組んでいくのか、中期財政見通しの見直しも含めて伺う。

**答** 現在の財政状況は、社会保障関係費の自然増に加え、公債費が依然高い状況にあるほか、新型コロナウイルス感染症の対応も相まって、厳しい現状にある。構造的に依存財源の割合が高い本県としては、まずは国に対し国庫財源の拡充や地方一般財源総額の確保を求めていくほか、産業振興および雇用の創出による税源涵養などあらゆる手段による財源確保に引き続き取り組んでいく。

また、中期財政見直しについて、現時点で新型コロナウイルス感染症の本県財政への影響を詳細に見込むことは困難な状況にあるが、県税収の動向や地方財政に関する国の検討状況などを見据えつつ、適切に見直しを行っていく。

文化教育 新型コロナウイルス感染症に対応した修学旅行の実施

**問** 新型コロナウイルス感染症の影響により修学旅行が延期された学校が多数あるが、岩手全土を生涯学習の場として、感染者が確認されていない県内各地を巡るコースを推奨してはいかがか。

**答** 小中学校が行う修学旅行は、設置者である市町村教育委員会が定める基準に基づき、教育活動の目的や児童生徒および保護者の意向、感染症対策などを踏まえ、各学校において実施時期や場所、内容などを適切に判断し、実施することとしている。

県教育委員会では、修学旅行やさまざまな活動場面で、県内の歴史や文化、自然に触れる機会を設けるのは意義深いと感じており、新型コロナウイルス感染症対応として、被災地訪問など復興教育との関連を図った活動や、県内および地元の良さに目を向けた活動例を示したガイドラインを作成している市町村教育委員会も出てきていると承知している。

農林水産 県産米の動向と今後の対応策

**問** 米の販売環境は不透明感を増しているが、需要に応じた生産の推進について、県産米の動向と今後の対応策を伺う。

**答** 本年5月末現在の県産米全体の販売数量は前年並みとなっており、在庫数量も東北で最も少ない状況となっている。国内では、地域の新型コロナウイルスの感染状況などを踏まえながら、段階的に社会経済の活動のレベルが引き上げられており、今後、外食需要などの回復が期待される。

県としては、これまで築いてきた全国の米卸売業者などのネットワークを活かしながら、今年度は、新たに全国のお米マイスターのいる米穀専門店と連携した「金色の風」「銀河のしずく」の販売促進キャンペーンや、ウェブ動画を活用した広報などのPR活動を展開することとしており、今後も県産米全体の販路が確実に確保できるよう積極的に取り組んでいく。



県産米の試食販売PRの様子

総務関係 県北・沿岸地域の振興方針

**問** 県北・沿岸振興施策の成果と課題をどう捉え、いわて県民計画に掲げるゾーンプロジェクトの目指す姿の実現に向けてどう取り組み、振興、発展させるのか伺う。

**答** 県北地域では、食品関連産業や造船業の業容拡大、アパレル産業の認知度向上などを通じて地域産業の振興が図られ、沿岸地域では新しい交通ネットワークや漁業生産基盤の整備のほか、国内外の多様な主体とのつながりが構築されてきた。

こうした成果を生かし、復興需要の減少や、全県と比べ進行する人口減少と高齢化を見据え、持続的に発展する地域の創造に向けて取り組む必要があるとの認識のもと、北海道・北東北の縄文遺跡群の世界遺産登録に向けた広域プロジェクトなどの展開、震災の教訓の伝承と復興の姿の発信など、交流人口の拡大と地域経済の活性化に取り組んでいる。

引き続き、これらの取り組みを深化させていくとともに、地方移住への関心の高まりなども生かしながら、県北・沿岸振興を推進していく。

農林水産 県北地域における野菜産地づくり

**問** 県北地域において、生産性・市場性の高い野菜の産地づくりを推進していく必要があると考えますが、どのように取り組んでいくのか伺う。

**答** 県北地域では、レタスなどの土地利用型野菜に加え、ピーマンやトマトなどの高収益野菜の産地化が図られてきたが、さらなる産地力の強化に向け、ピーマンやレタスなどへの自動かん水装置や移植機の導入、トマトへの環境制御装置の整備などを支援しており、生産量、産出額ともに増加傾向となっている。

今後は、水田などへの高収益野菜の作付拡大を図るとともに、北いわてスマート農業プラットフォーム創造事業により、環境制御技術や自動操舵トラクタなどを活用した省力化技術の導入を促進し、県北地域の産地力の強化に取り組んでいく。



県北地域の広大な野菜畑

6月定例会のポスター制作者のコメント

若者向け県議会傍聴案内ポスターを作成しました

岩手県立不來方高等学校 千葉 春月 さん

キャッチコピーに「築く」という言葉があるので、皆でパズルを完成させようとする様子を描くことで、「岩手の未来をつくっていく」ということを表現しました。一人ひとりの力が団結してこそこの「築く」だと思います。このポスターを見て「これからのことを考えていこう」と感じていただければと思います。賞をいただき、ありがとうございました。

※令和2年度若者向け県議会傍聴案内ポスターデザインコンテストにおけるキャッチコピー「いわての未来はわたしが築く。行こうよ県議会！」



開催予告

冬休み！親子県議会教室開催のお知らせ

県議会では今年度も「親子県議会教室」を開催します。県内の小学校・義務教育学校に通う5・6年生と保護者の皆さまの参加をお待ちしています。

開催概要

- 開催日：令和2年12月26日(土)
- 開催場所：岩手県議会議事堂
- 内容(予定)：・県議会議事堂を探検してみよう ・県議会議員とのふれあいトーク ・県議会クイズ など

参加方法 11月中旬から岩手県議会ホームページなどでお知らせします。

※昨年度の様子は岩手県議会ホームページをご覧ください。

岩手県議会

検索

携帯電話・スマートフォンからはこちら

